第二章

1億年後の世界

いちおくねんごのせかい

100 Million Years

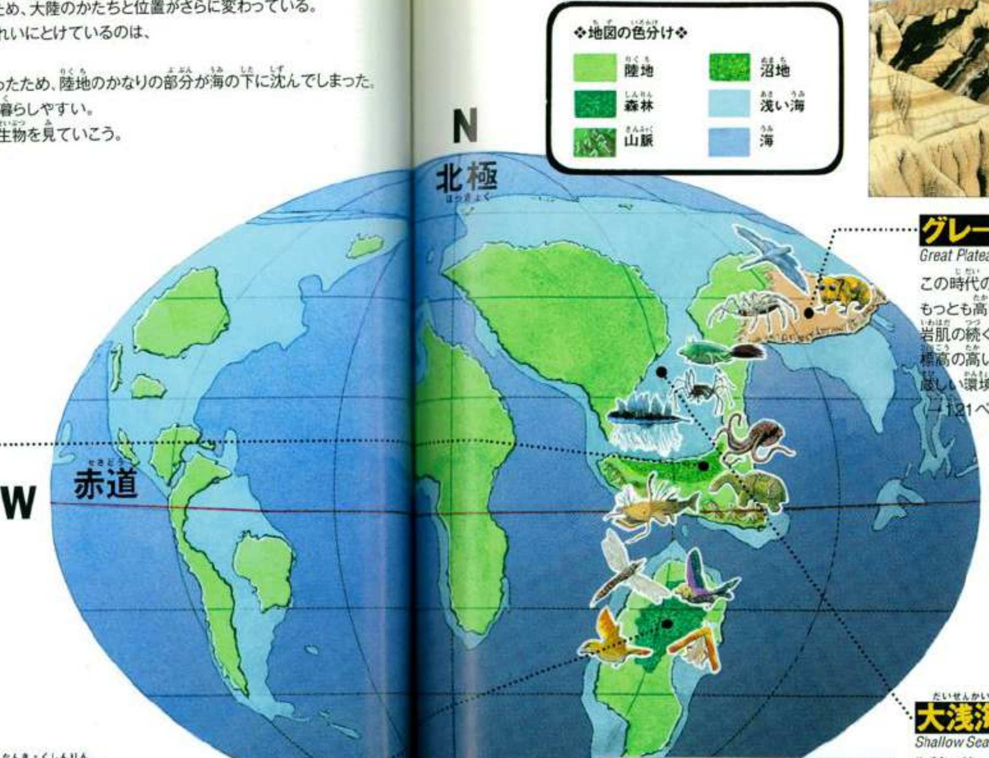
1億年後の世界 *100 Million Years*

現代から1億年後の地球は、厳しい氷河時代をくぐりぬけ、あたたかい気候につつまれている。
地球のプレートが長い時間をかけて動いていったため、大陸のかたちと位置がさらに変わっている。
かつて北と南の両方の極地をおおっていた氷がきれいにとけているのは、
人類がいたころよりも気温が高いから。
そしてとけた水が海に流れ込んで海水面が高くなったため、陸地のかなりの部分が海の下に沈んでしまった。
生きものにとっては、あたたかく湿度が高い環境は暮らしやすい。
この世界のあらゆる場所に息づく、さまざまな未来生物を見ていこう。

ベンガル沼地

Bengal Swamp

ベンガル沼地は数千キロに
わたってのびている、
沼とジャングルの蒸し暑い地帯。
積もった泥のあいだを、
にごった川が流れ、
沼の上はうっそうとした緑でおおわれている。
土に含まれる栄養分が豊かで、
植物はよく成長する。
(→67ページ、247ページ)



グレートプラトー

Great Plateau

この時代の地球上で
もっとも高い山脈に囲まれた
岩肌の続く高原地帯。
標高の高いこの一帯は、空気がうすく
厳しい環境になっている。
(→121ページ、249ページ)

南極森林

Antarctic Forest

かつて南極にあった大陸は、
今や赤道近くまで移動している。
気温と湿度が上がり、
おいしげる熱帯雨林が広がっている。
(→248ページ)

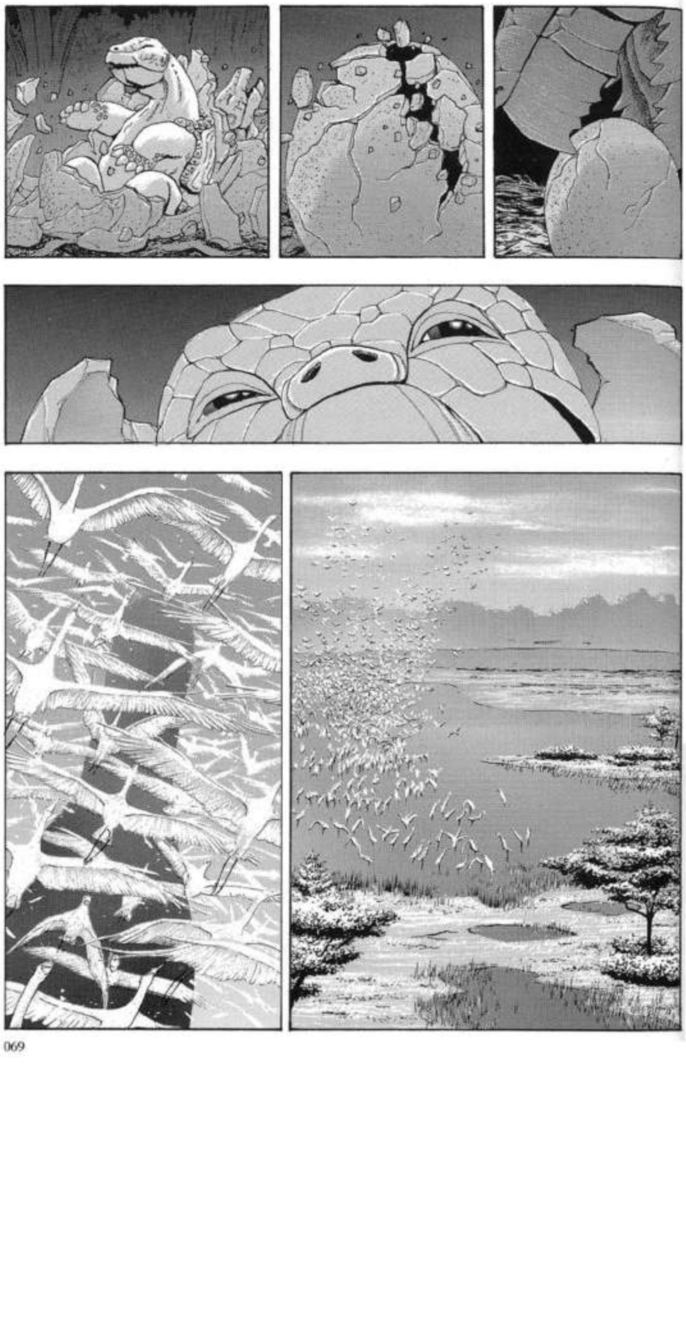
大浅海

Shallow Seas

日光が明るくさしこむ
浅い海が続くこの一帯は、
大浅海と呼ばれている。
この海の中は
たくさんの生きものたちの生活の場。
1億年後の世界ではここだけではなく、
それぞれの大陸の沿岸の
ほとんどが浅い海になっているのだ。
(→95ページ、246ページ)

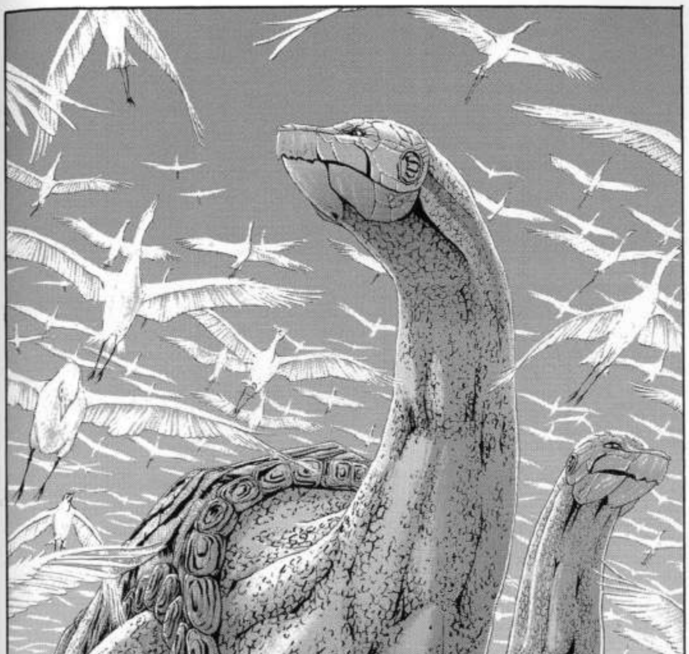
ベンガル沼地

Bengal Swamp



1億年後の世界

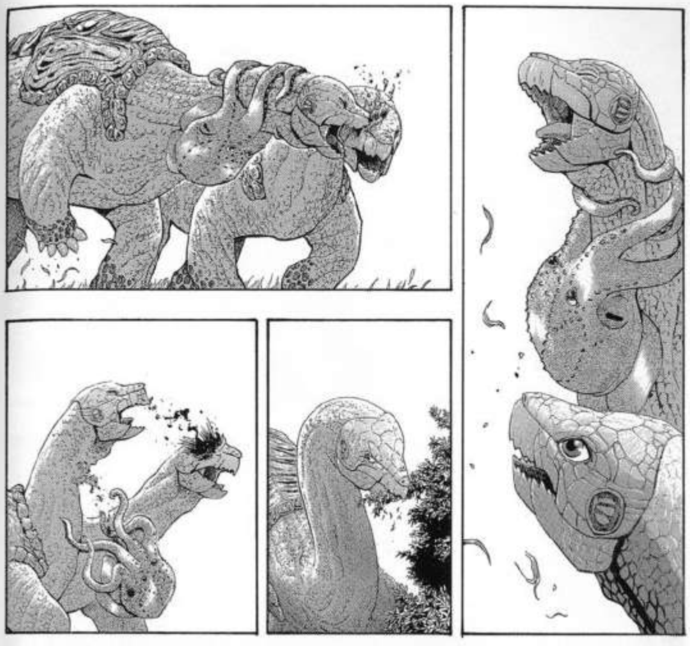
いちおくねんごのせかい

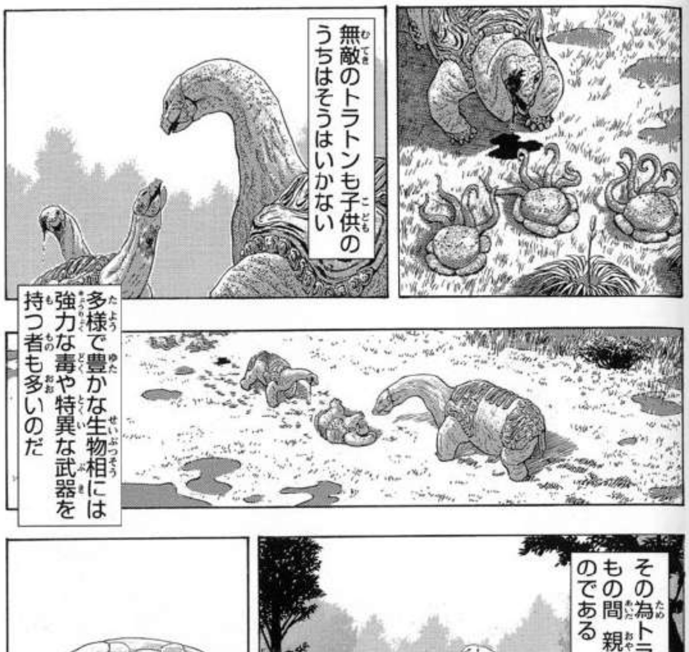

トラトン
toraton

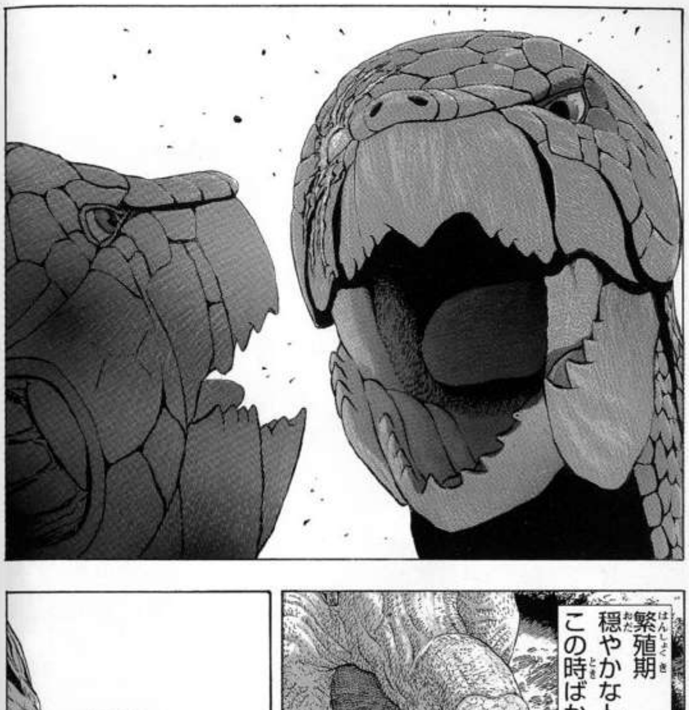
人類が消え去って一億年後
気候は極めて温暖かつ湿潤
生命の発達に最適となり
この数千キロに渡って続く
ベンガル沼地も生き物達で
溢れている

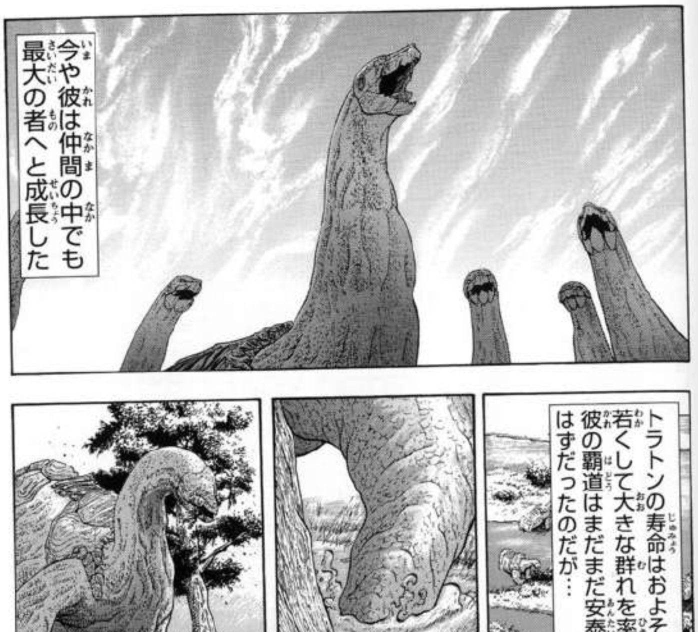
そして大自然はついに
地球史上最大の陸生動物
トラトンを生みだした
体高7メートル
体重120トン
実に象の24倍に達し
中生代の恐竜をも凌ぐ

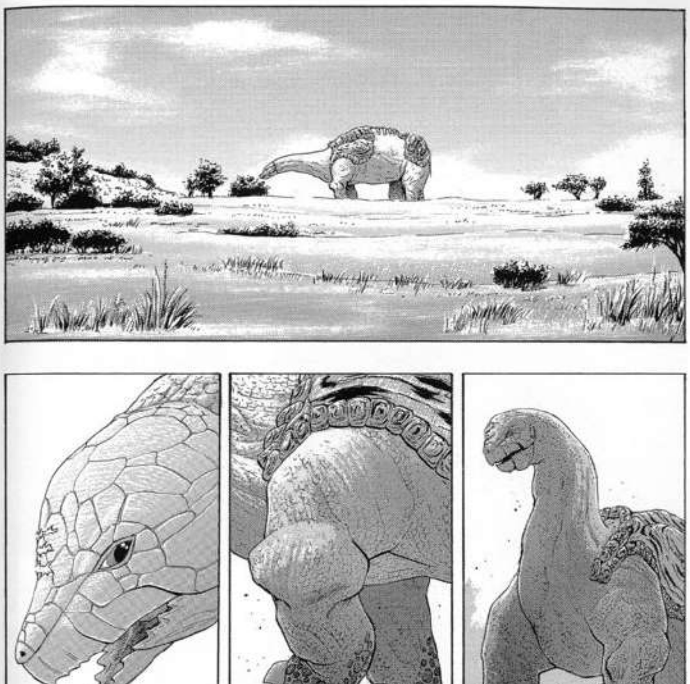
暮らしの殆どは
食事と移動
繁茂する植物が糧だが
群れなら立ちどころに
一帯を食い尽くすのだ

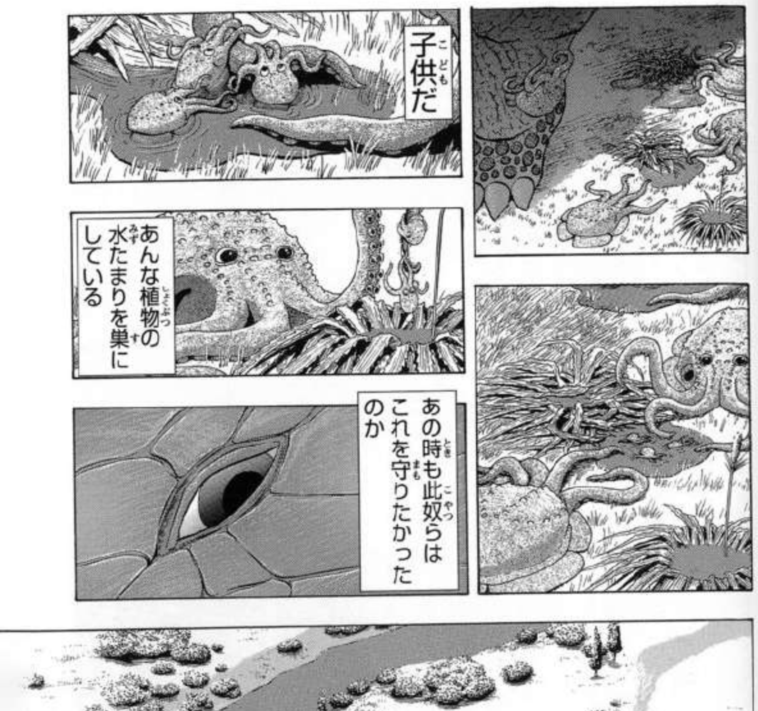

スワンパス
swampus


無敵のトラトンも子供のうちはそうはいかない
多様で豊かな生物相には強力な毒や特異な武器を持つ者も多いのだ
その為トラトンは5年もの間 親子で暮らすのである


繁殖期
穏やかなトラトンが
この時ばかりは一変する

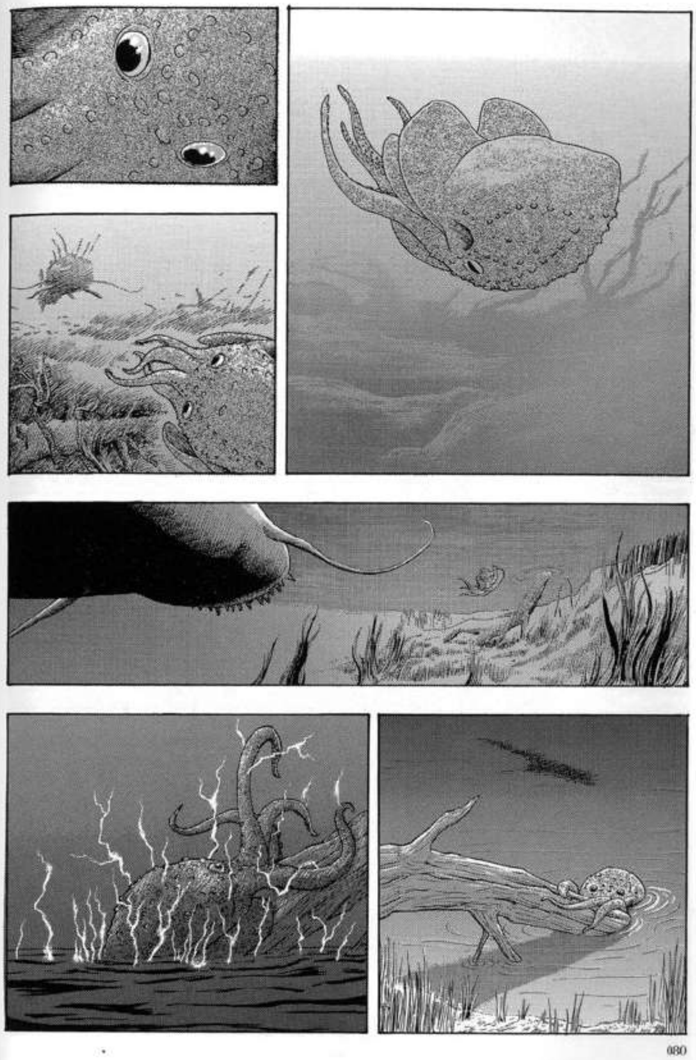

今や彼は仲間の中でも
最大の者へと成長した
トラトンの寿命はおよそ120年
若くして大きな群れを率いた
彼の覇道はまだまだ安泰の
はずだったのだが…

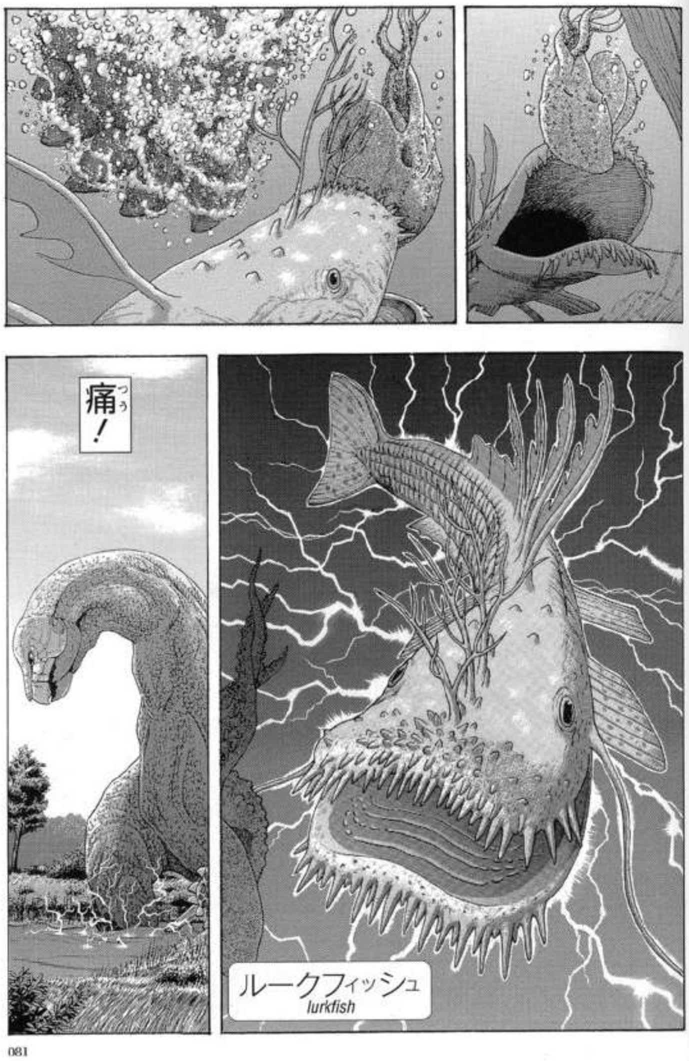

幼い頃出会った奴らだ
なんとひ弱でうっとおしい


子供だ
あんな植物の水たまりを巣にしている
あの時も此奴らはこれを守りたかったのか

仲間の歩みに付いて行けなくなった彼であったが独りならば辺りの草木でなんとか食っていける
移動に費やしていた時間はもっぱらスワンパスへの関心に使われる事となった
しかも本当は水の中の生き物で時おり戻らないと生きていけないようだ
何匹かで見張りと餌取りを分担している
それならずっと沼にいればいいのに？ますます妙な連中だ

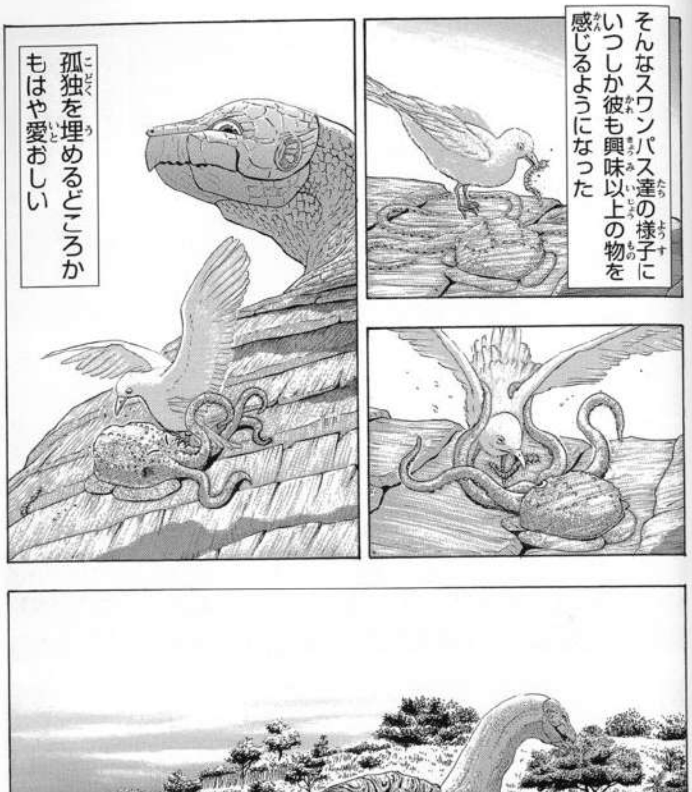
踏まれる事こそ無くなったが
スワンパスにはやはり迷惑な話だ

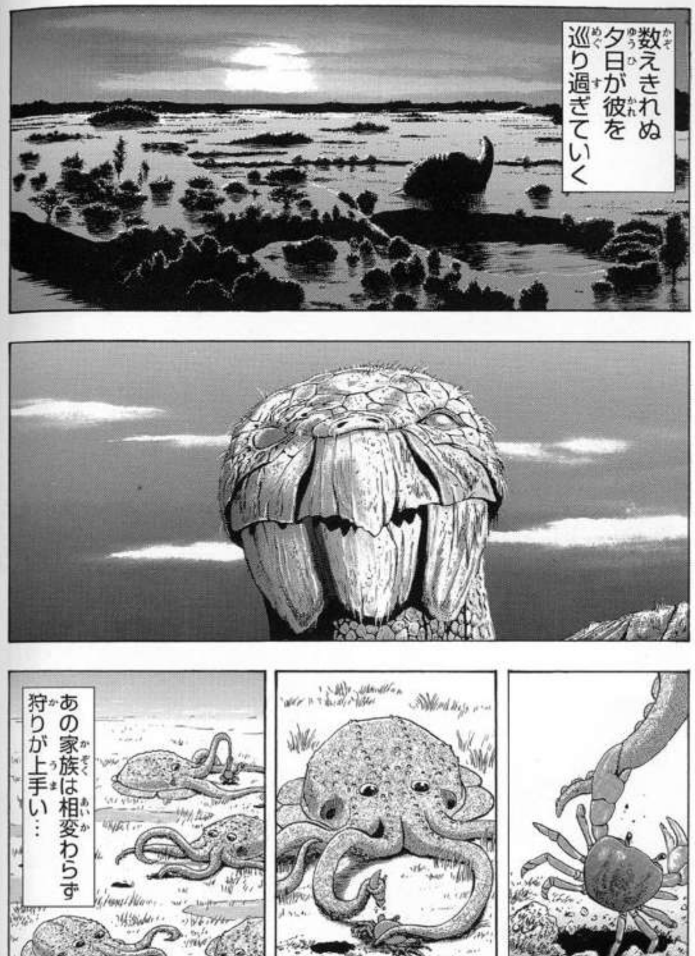


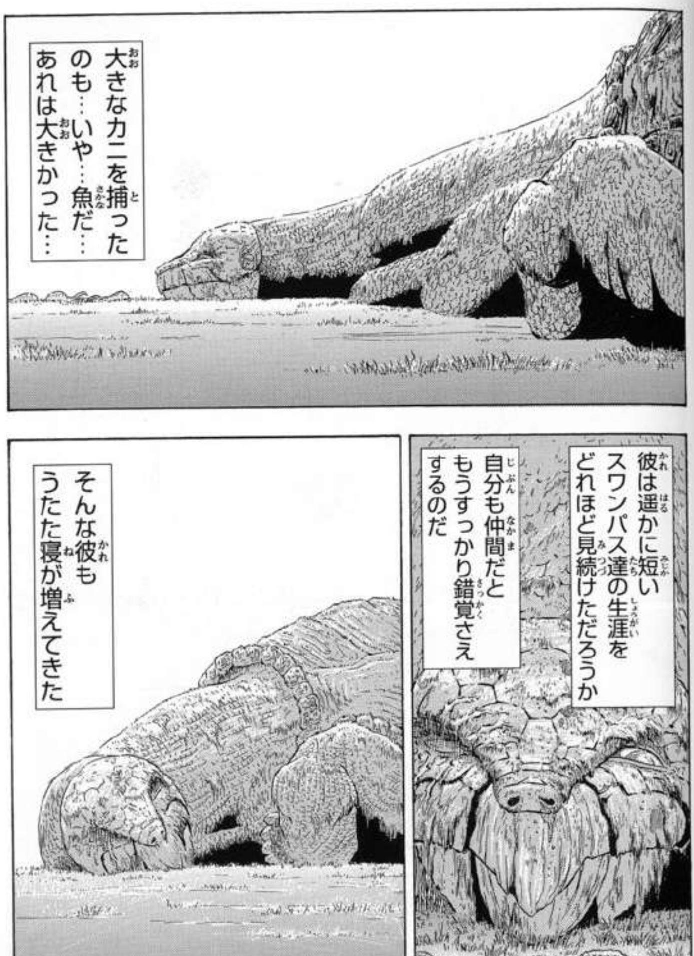


痛！
ルークフィッシュ
lurkfish

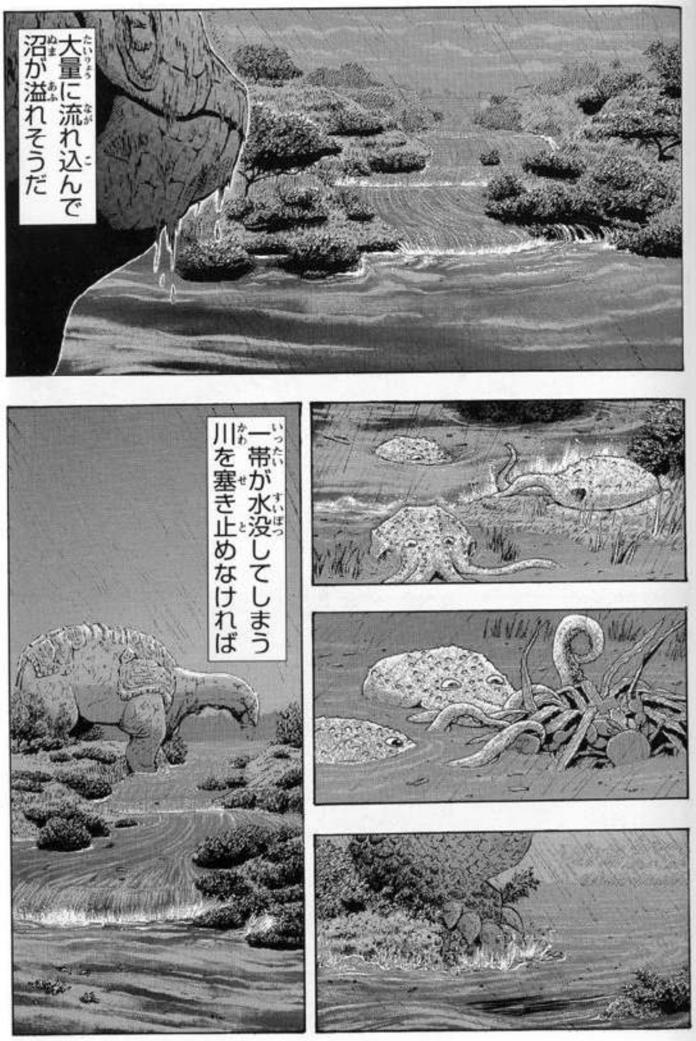
それは彼がただ自分の興味を満たすだけの行動であった
スワンパス達を助けるつもりなど無かったのである
だが以来スワンパス達は彼に親しみを覚え始めた
実はその知性は彼よりもずっと高いのだ

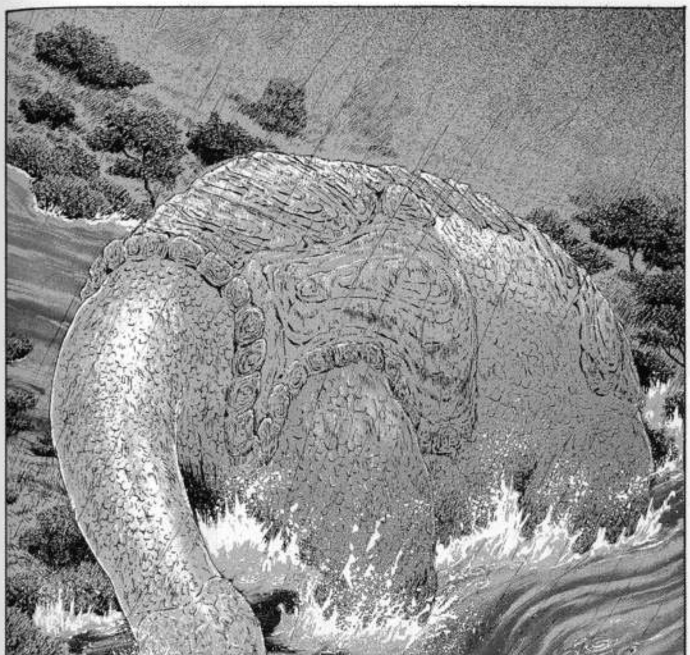

そんなスワンパス達の様子にいつしか彼も興味以上の物を感じるようになった
孤独を埋めるどころかもはや愛おしい


数えきれぬ夕日が彼を巡り過ぎていく
あの家族は相変わらず狩りが上手い…

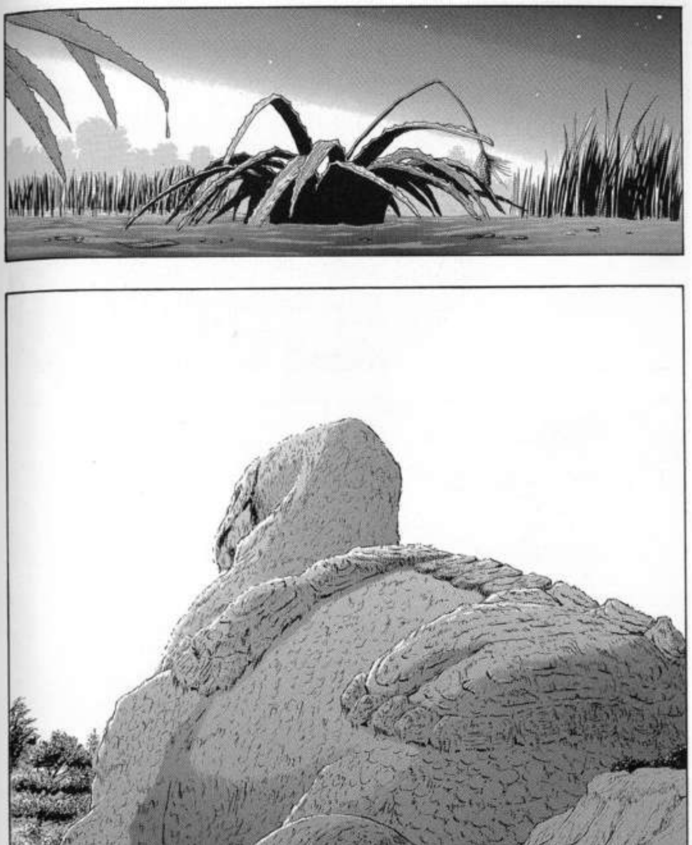

大きなカニを捕ったのも…いや…魚だ…あれは大きかった…
彼は遥かに短いスワンパス達の生涯をどれほど見続けただろうか
自分も仲間だともうすっかり錯覚さえするのだ
そんな彼もうたた寝が増えてきた

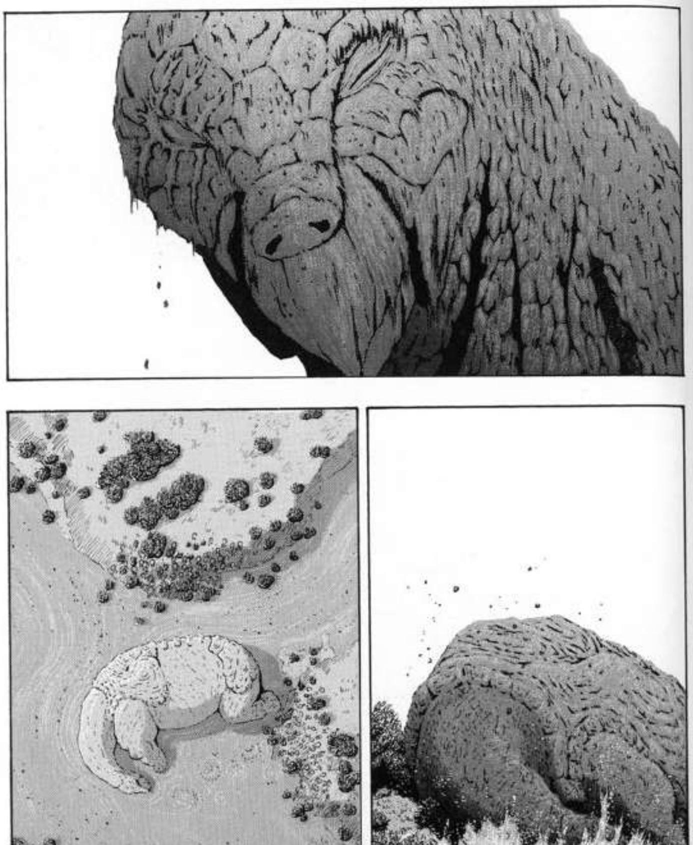
ずいぶん
降り続いている

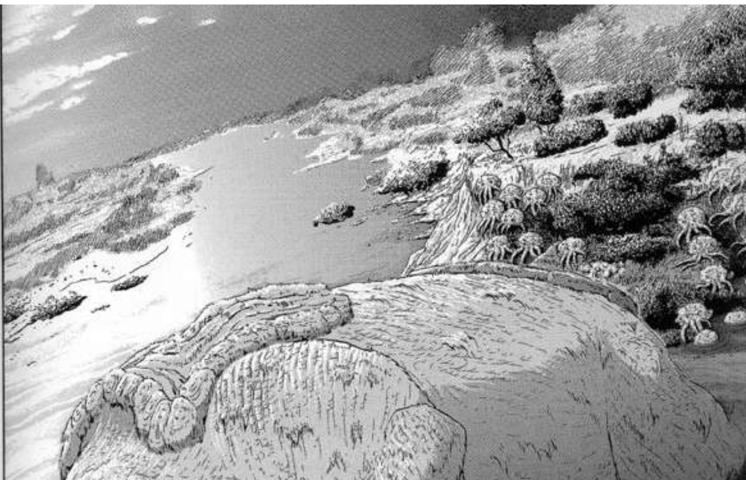

大量に流れ込んで
沼が溢れそうだ
一帯が水没してしまう
川を塞き止めなければ

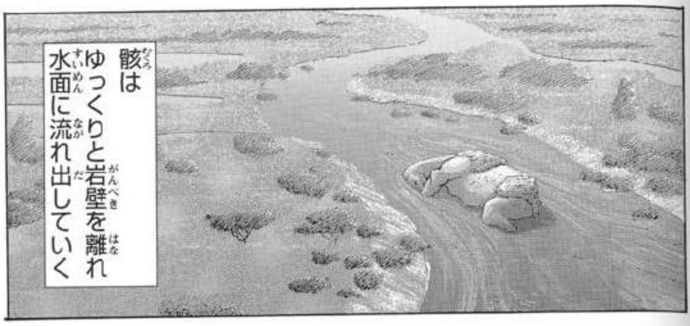


潰れる…なあに…
ちょっとの辛抱
終われば…
呆気無いものだ








骸は
ゆっくりと岩壁を離れ
水面に流れ出していく

そして
その巨族の永き生涯を
大自然は静かに
包み込んでいった

ベンガル沼地　END